

自然が造った地形と人工の地形

- ① 川島から森にかけての広々とした田園は、標高が500～600mで、地形学上では吉備高原面と言われている。また川島から遠望できる飯山、白滝山、道後山は、1,000～1,300mの標高で平たんな山頂を持ち、これを道後山面という。
- ② 中国地方の地形は三段になっていると言われているが、八幡は、道後山面と吉備高原面とこれらの間の山麓斜面とを生活圏としてきた。また白滝山の東斜面を山麓緩斜面として、学会ではよく知られた地形だが、誰が見ても自然が造った八幡の地形は美しい。
- ③ 八幡でマサ土の見られる所は、殆どが「カナナ流し」で変わってしまった人工の地形である。砂鉄を採取し鉄にするという鉄の産業は、時代と共に滅びたが、土砂を流した副産物として扇状形の流しこみ田が生まれたことは村としては幸いであったと言えようか。
- ④ 山に入れば、掘れるところまで掘った跡が崖になっている「ホラ」にぶつかるが、耕地の中に残された「小丸」（鉄穴残丘）などと共に「カナナ流し」が行われていたことを示す痕跡である。八幡の地が、人々によって改変された地形だと気づく人は少ない。



これらの山々は分水嶺となっている背梁山脈を形成し、広々とした川島の田園風景は吉備高原の始まりでもある。



砂鉄を採取した跡を示す小丸などを鉄穴残丘という。(森)